

研究結果報告書

韓国からみる 21 世紀の日中韓関係の構造変化と「東アジア共同体」構想

所属：釜山外国語大学校 外交学科

役職：教授

氏名：孫 基燮

1. 研究結果として次のような日中韓関係の構造変化と特徴を発見した。
尚、詳細は次ページに記載した論文、書籍に纏めて公表した。

第一に、日中関係は戦後から現在までに大きく四段階で変化してきた。
各段階の特徴は下記。

- (1) 1945－1972 : 冷戦的対立期－国交不成立、外交対立&民間貿易
- (2) 1972－1996 : 戦後的友好関係期－国交正常化、特別友好関係
- (3) 1996－2010 : 脱戦後的普通関係期－協力と競争、葛藤局面増加
- (4) 2010－現在 : 21世紀的勢力転換期－パワー逆転、勢力変化、葛藤

第二に、日韓関係もはっきりなしに変化したがる、90年前後から構造変化して、現在は友好と葛藤の循環段階に入っている。

- (1) 1945－1965 : 戦後清算国交交渉期－7次に及ぶ国交交渉会談
- (2) 1965－1982 : 戦後的正常発展期－日韓円借款援助、国交正常化
- (3) 1982－2005 : 特別友好協力期－中曽根対韓国外交、金大中外交
- (4) 2005－現在 : 21世紀的構造転換期－友好と葛藤の循環

2. 2010年から日中関係の勢力変化に伴う日米韓中関係の複合化が進展してきたことを分析した。

第一に、米国のアジア再均衡政策と中国との対立激化

第二に、中国習近平政権の「中国夢」ビジョンと日中関係の性格変化

第三に、日本安倍政権の集団的自衛権及び改憲政策に伴う日中緊張

第四に、北朝鮮の核危機の加速化とアジアの核安保不安と流動性

第五に、韓国の外交安保政策及び韓米同盟の在り方が問われている

3. 「東アジア共同体」構想についてはダイナミックに流動化すると共に限界も示していることを確認した。

第一に、21世紀初めごろの「東アジア共同体」構想の進展

第二に、アセアン+3、EAS、通貨スワップなどの友好協力制度発展

第三に、KEDO失敗、ARFの限界、六者会談失敗など安保レジェームの不足

第四に、経済通商面の協力は飛躍的に発展したが、FTA, RECP, TPPなどはいまだに制度及び内容づくりが不足

第五に、文化及び人的交流の増加などは「東アジア共同体」に希望

第六に、経済及び文化、人的交流の増進と外交安保の信頼策が必要

口頭発表 （題名・発表者名・会議名・日時・場所等）

1. 韓国国際政治学会（2011年8月及び2012年5月）
2. 東アジア日本学会（2011年11月）など多数。

論文 （題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）

1. 孫きそふ（Son, Kisup）、「脱冷戦期の韓日関係の構造転換と相互依存」
『国防研究』2010年8月第53集
2. 孫きそふ（Son, Kisup）、「北東アジア海洋領土紛争の現在化」
『韓国政治外交史論叢』2013年2月第34集2号

書籍 （題名・著者名・出版社・発行時期等）

1. 孫きそふ（Son, Kisup）『現代日本外交と中国』（釜山外大、2012）
2. 孫きそふ（Son, Kisup）『外交論』（釜山外大、2013）